

## 第9回 日本外来小児科学会 予防接種委員会 会議録

2010年11月3日(日)12:00-15:00

於:ホテル新大阪 東ロステーションビル

出席:岡藤隆夫、落合 仁、武内 一、田原卓浩、寺田喜平、永井崇雄、藤岡雅司、宮崎千明、宮田章子、横田俊一郎、吉川哲史、渡辺 博

会計:52,730円(会場費、機材費、昼食費)

### [報告事項]

#### 1. 現在進行中の研究の進捗状況について

##### 1) 麻疹含有ワクチンの発熱率はそれほど高くない?(岡藤)

昨年9月から1年間の予定で開始。進捗状況が思わしくなく調査期間を2年間に延長。参加44施設中15施設が実施。4施設調査終了。4施設脱落。68ペアで調査完了。非接種対照例の確保が難しく、今後の調査実施はさらに困難と思われる。学会から研究費として100万円の交付。現在まで76万円強を支出。

##### 2) 突発疹(HHV-6初感染)後のMRワクチン接種スケジュールに関する検討(吉川)

ワクチン学会抄録提示。エントリー例数が増えない。突発性発疹後、接種までの期間の長短で麻疹・風疹抗体獲得に差はない。突発性発疹罹患を証明するHHV6のIgM抗体検査の感度が低く、臨床診断に頼らざるを得ない。ペアでIgG抗体を測定する。

#### 2. 本年の第20回年次集会(田原会長、福岡)での予防接種委員会のWSの結果報告(岡藤)

コメディカルのみ36名参加。4グループに分けた。ワクチンの種類が増えて対応に困っている様子あり。保護者からのよくある質問への回答を検討し、Q&A集を作成することを予定したが、内容が多岐にわたりできなかつた。コメディカルの情報交換の場としては有用であったが、経験談に終始した。もう少し少人数のグループ構成にすればよかった。次年度も開催予定。グループごとにテーマを提示し、それぞれで回答例を作成する形式にすればどうか。現場のコメディカルの持つ(コメディカルしか持てない)テーマを掘り起こすことも重要。

#### 3. 現在の厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会、予防接種推進専門協議会、

日本小児科学会予防接種・感染対策委員会などにおける最近の議論の方向性について(宮崎)

1) 日本脳炎ワクチン、DPT ワクチンの臨床試験の成果と現状について

日本脳炎: 外来小児科学会会員施設でのデータが基になって省令改正につながった。2 期が再開され、1 期接種漏れ者への接種が実現した。ワクチン供給量は問題なし。化血研液状ワクチンは承認されず。乾燥凍結ワクチンで承認待ち。接種間隔について「概ね一年(11 か月から 13 か月)」は意味がない。「1 週から 4 週」というのは季節性ワクチンであった当時の名残。

DPT:DTaP 0.2ml は治験完了している。厚労省の態度がはっきりしない。

インフルエンザ: 用法変更についてメーカーごとに再治験中。

2) パブリックコメントの提出について

予防接種法改正議論のため再度のパブコメ募集があると思われる。

3) ファクトシートの提出と定期接種化への最近の協議の進捗状況

8 月末に HPV ワクチンの概算要求 150 億円の話が唐突に出てきた。ワクチン評価に関する小委員会ができたが、小委員会報告の直前に、デフレと円高対策のための補正予算獲得のため厚労省として HPV、ヒブ、小児用肺炎球菌の助成議論になった。都道府県に基金を作り費用助成をする。定期接種化は平成 24 年度からが予想される。今年中に提言をまとめ、年明けに改正予防接種法案が提出される予定。対象疾患の決定を政令事項にできれば。

4) 日本版 ACIP の設立

厚労省自身が日本版 ACIP のたたき台を提示しているが、厚労省内に設置される可能性あり。

5) その他

HPV、ヒブ、小児用肺炎球菌の公費助成が実際に行われるのか。その時期は? 実際には何も確定された事項はない。

BCG: 接種時期について。

ポリオ: 単独 IPV が必要。

4. 日本小児科医会、日本医師会などの関連した動きについて(横田、寺田)

1) 定期接種への署名活動

締め切りは過ぎたが、現在も続けている。内容的に詰めが不十分で実施された。

2) シンポジウムの開催

峯真人先生、高畑さん、保坂理事らが出席。

3) その他

メーカーとの利益相反について。

小児科学会の次年度集会のシンポジウムについて。

5. 予防接種システム検討会について(藤岡)

次年度から予算計上予定。

6. その他

特になし。

[協議事項]

1. 2010年12月11-12日の日本ワクチン学会、2011年3月13日の予防接種に関する報告会(旧班会議)への対応について  
吉川:突発性発疹後のMRワクチン  
岡藤:MR接種後の発熱
2. 日本外来小児科学会役員会への次年度予算の計上など(藤岡)  
会議費:1回5万円。2回分10万円を計上  
調査費:30万円  
システム検討会:10万円
3. すべてのワクチンの定期接種化に向けて我々の行動すべき方向は?  
公費助成実施状況調査。  
ヒブ、肺炎球菌接種率調査。早期保菌を考慮し保育園での調査が実際的と思われる。
4. 麻しん風しんの全数報告のための、検査診断の実施状況について(落合)  
地方衛生研究所レベルでの実施体制は作られている。麻疹IgMとパルボウイルス感染の交差反応の除外が問題となっている。保健所・衛生研究所でのPCRのための予算がついていない。診断医の資質も問題。
5. 「任意接種のワクチンの同時接種の効果と副反応の検証？」(藤岡)  
BCGと他の不活化ワクチン。エンドポイントの設定。BCGの効果判定の方法。抗体検査とツ反。いろいろな組み合わせの提案。
6. 次のリサーチテーマは?  
吉川:MRと水痘の同時接種研究(加藤班)。  
藤岡:さまざまな組み合わせの同時接種、特にBCG。
7. その他
8. 次回の委員会開催予定  
23年5月、6月中に開催予定。メーリングリスト上で調整。  
×6月11日、12日  
×5月29日